



平成27年10月20日

各 位

会社名 日本農薬株式会社
 代表者名 代表取締役社長 神山 洋一
 コード番号 4997 東証第1部
 問合せ先 執行役員管理本部総務部長 飯島 豊和
 電 話 03-6361-1400

特別損失（のれんの減損損失）の計上ならびに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成27年9月期決算におきまして、「のれんの減損損失」を特別損失として計上することといたしましたのでお知らせするとともに、平成26年11月13日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. のれんの減損損失について

当社は、製品ポートフォリオの拡充を目的として、平成25年10月にイタリアのISEM S.r.l.より除草剤「オルトスルフアムロン」の資産を譲り受けました。しかしながら、登録移管の遅延や一部の販売国における流通在庫の影響などから、販売実績は当初の計画に対して大きく乖離して推移しております。

これに伴い、平成27年9月期にのれんの減損損失として948百万円を特別損失として計上いたします。

2. 通期業績予想の修正について

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	61,000	9,600	9,100	5,900	88 円 26 銭
今回発表予想 (B)	57,000	9,900	9,300	5,700	85 円 28 銭
増減額 (A-B)	△4,000	300	200	△200	
増減率 (%)	△6.6	3.1	2.2	△3.4	
(ご参考) 前期実績 (平成26年9月期)	56,696	9,407	9,361	6,137	91 円 82 銭

3. 通期業績予想の修正の理由

国内農薬販売では、昨年4月の消費税率引き上げに伴う前倒し需要の反動や天候不順の影響などから販売が伸び悩みました。また、海外農薬販売はフェニックス原体販売の大幅な減少やアジアの主要市場であるインドでの販売が低調に推移しました。これらの結果、売上高は当初の予想を下回る見込みであります。営業利益及び経常利益はノウハウ技術料収入の増加や為替の円安基調での推移に加え経費削減に努めた結果、当初の予想を上回る見込みであります。一方、当期純利益につきましては上記の特別損失計上により、当初の予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上